



子ども総合センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第54号) 令和2年12月号

当たり前の日々が一番幸せ

トントントントン♪トントントントン♪流れるようなリズムカルな音が室内に響く。応答ボタンを押すと、孫の顔が画面いっぱいに映り込む。その瞬間、「ジジー、ババー。ジジー、ババー。」と覚えてたの言葉で話しかけてくる。

今年はコロナの影響で県外からの移動が自粛傾向にあり、子どもたちの帰省もなく、こちらから出向くこともできないまま、寂しい思いを余儀なくされた方々も多くいらっしゃると思う。残念だけど仕方がない。当たり前の日常がそうではなくなり、当たり前のことがいかに幸せであるかを再確認させられた年になった。

でも、コロナの影響下、新しく生み出されたものもある。ソーシャルディスタンスとい

う言葉がはやり言葉となり、相手との距離感をうまく保つように行動化されてきた。在宅勤務も一気に広がりを見せた。マスク着用にうがい、手洗いも日常化してきている。

「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」とは、進化論を唱えたダーウィンの言葉。

「ジジー、ババー。ジジー、ババー。」と話しかけてくる孫たちが、次の世代を引き継ぎ、明日の日本を支えていく人になっていく。明日の未来に希望がもてる。どうぞ来年こそよい年になりますように…。

(K・H)



適応指導教室「はばたき教室」

… 31kgの巨大カボチャをありがとう …

南伊予の方が、「はばたき教室の子どもたちに元気と感動を届けたい。」とわざわざ東温市から巨大カボチャを運んできて下さいました。カボチャを見て、子どもたちは思わず「すごーい。」と感動の声。早速ハロウィンに向けて楽しそうに目・口と顔を作っていました。自由に作らせることで子どもたちの発想が膨らみ、友達と相談しながら楽しそうに作る姿へと、子どもたちの表情が変わるのを実感しました。

子どもたちは、自分たちで作ったオリジナルのカボチャに帽子をかぶせて出来上がると、「やったあ、できた。」と、笑顔でガッツポーズ。出来栄をみんなに褒めてもらい、自信をつけたようです。

「ハロウィンってもとは何がきっかけで日本に来たのかな？」などと会話も広がり、他の国の様子も調べる活動へと続けました。

何よりもうれしかったのは「こんなに重いものを自分たちのために運んでくれてうれしい。」と子どもたちが発した言葉でした。相手のことを思う気持ちが、カボチャを通して子どもたちに伝わったのです。

届けて下さった南伊予の方に心から感謝でいっぱいです。ありがとうございました。



「うまく出来たよ。」

「おいしい!」の理由

NHKラジオの「子ども科学電話相談」のファンである。子どもたちが電話を通して質問をし、その道の専門家が年齢に応じて答えてくれる番組である。

ある日の、1年生の女の子の疑問。「北海道旅行で食べたソフトクリームがとってもおいしかったの。どうして北海道のソフトクリームはおいしいのですか？」

ほんと、北海道のソフトクリームは格別だよねえと、勝手に共感していると、回答者が「誰と行ったの?」「一緒に食べたのは誰?」「その時の気持ちは?」と次々と尋ねた。あれ??北海道の牛乳は成分が違うからじゃないの、広い牧場で育てた牛はストレスがないから格別いい牛乳になるんだ、だからソフトクリームもおいしいんだよ、と思うっていたのに……。どうも違うらしい。

楽しみにしていた旅行、みんなと一緒に食べたソフトクリーム。自然とニコニコしてしまう。おいしいねと言い合いながら味わったはず、旅行から帰っても北海道のソフトクリームはおいしかったよねと、思い出話にまで出てくる。もちろん北海道の牛乳は成分も違うかもしれない、おいしい記憶は舌だけじゃないんだ、それを食べた時の気持ちが大きく関係しているのだよ。と、やさしい言葉で回答していた。

一人〇〇という言葉の時おり聞く。否定する気持ちはないが、誰かと「おいしいね。」と言いながら味わう時間や機会をできるだけ多く持ちたいと感じた時間だった。(W)

発達支援巡回相談

子どもと遊ぼう!

言葉が出ない、指示が伝わらない、指先が不器用、集団の中でうまく関われないなど気になることはありませんか。まず一番にすることは「遊び」です。遊びながら周囲との関わりを深め、豊かな感性を養って心も体も成長します。巡回では毎月、子どもと一緒にだんご虫を探したり、ままごとをしたり。言葉が出始めた子や活発に走れるようになった子と出会えることが喜びです。できることを褒めできるようになった時に子どもとハイタッチし、喜びを分かち合える大人でいたいと思います。

～障がい児は「小さな障がい者」ではなく「障がいのある子ども」である。子どもは心身共に発達期にあり、その発達過程で何らかの気になる状態から支援を必要とするすべての子どもを対象とするべきである～と、全国児童発達支援協議会で提唱されています。(K)

<センター長のつづやき>「1行日記」

我がスマホのなかに「日体と深沢」というLINEグループがある。45年も前に世田谷区深沢の日体大に通っていた仲良しグループである。現在は8名が参加していて、地域も北海道、埼玉、東京、岐阜、大分、愛媛と多彩である。

先日大分の友が、1行日記について教えてくれた。大学ノートに1行に1日分を書くそうだ。1枚に1か月分書けるので1年で12ページということになる。なんと40年も続いているとのこと。主な今日の出来事や読書の時間なども克明に記録されていた。

私もよく5年日記を買ってはみるものの、最後まで続いたことがない。1行日記ならやれる、そんな思いにさせてもらった。私も11月から1行日記を10年間書こうと、挑戦を開始した。2030年「次の10年も頑張ろう」という自分に会いたいものだ。(DOIG)



伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1 ☎989-6226
(伊予市総合保健福祉センター2階)